



Back to

1993

世界に誇る自然遺産

く屋久島く

世界遺産登録から20年

森林は資源供給地から

地球の財産へ

自然と人が共生する屋久島

標高1936メートルの宮之浦岳をはじめ、峻険な山岳が洋上にそびえる屋久島。その特異な地形から巨大な屋久杉がたたく森が広がり、雄大な自然は多くの人を魅了しています。平成5年にはユネスコの世界自然遺産に登録（日本初の登録地のひとつ）され、国内のみならず世界からも注目される存在となっています。

近年は年間約30万人の観光客が訪れる人気の観光スポットとなっていますが、屋久島が観光の島となったのは、意外に最近になってからのこと。昭和39年に国立公園に指定（霧島国立公園に屋久島が編入され、霧島屋久国立公園と改称）されたことで、知名度が上がり、広く知られるようになりました。

来島者の増加に対応するため島内道路や登山道などの整備や交通手段の整備も進められ、昭和36年に鹿児島く屋久島間にフェリー屋久島丸が就航。昭和38年には屋久島空港が開港しました。

年間の来島者は、「縄文杉」が発見された昭和41年には約2万人、昭和45年に約5万人、昭和49年には10

①宮之浦岳から望む山々とヤクシマシヤクナゲ

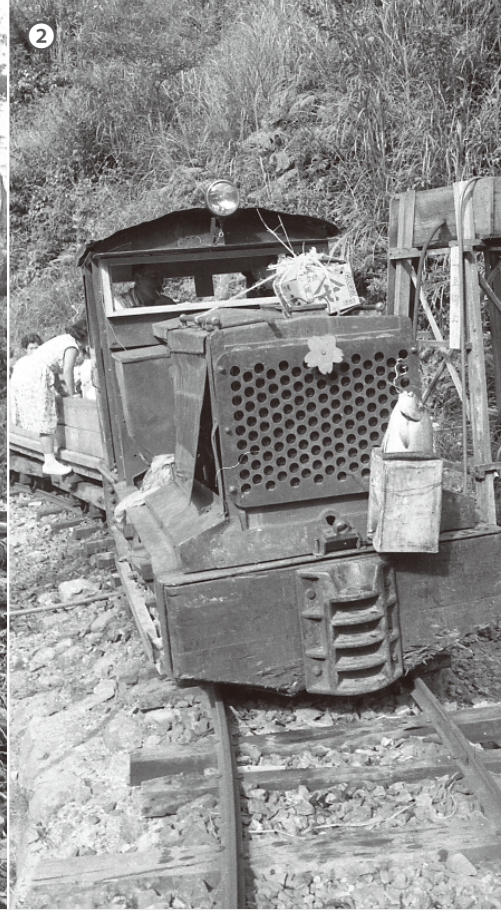
※1 平成19年に口永良部島を国立公園に編入。平成24年に霧島屋久国立公園を霧島錦江湾国立公園と屋久島国立公園に分割。



④



③



②



⑤

②・③ 伐採した杉の運搬や日常生活でも使われた森林軌道(トロッコ) ④ 昭和30年頃の小杉谷集落 ⑤ 昭和36年に就航した屋久島丸

万人を突破、さらに、平成元年には高速のジェット
foilによる定期便が就航。平成5年の世界自然
遺産登録などにより、観光が島の主要産業のひとつ
となりました。

屋久島は、もともと豊富な森林資源を生かした林
業の島でした。

天正14年(1586年)に豊臣秀吉の発した京都方
広寺の大仏殿の建立用材調達令により、屋久島は森
林資源の島として注目され、江戸時代に入ると平木
(木材)が年貢として納められるほどで、島民にとつ
ては経済基盤をなす資源となっていました。

明治時代になると屋久杉の森は国有林とされ、大
正12年には下屋久営林署の小杉谷事業所が開設。国
の事業として大規模な伐採が展開されるようになり
ました。小杉谷地区・石塚地区には伐採作業員とそ
の家族が暮らす集落も形成されました。

山深い小杉谷集落は、森林軌道(トロッコ)だけが
外部とをつなぐ唯一の交通路で、最盛期の昭和35年
には約540人が暮らしていましたが、昭和45年の
事業所閉鎖に伴い集落もその歴史を閉じました。

現在、屋久杉の伐採は行われず、工芸品などには土
埋木(かつて伐採された屋久杉の切り株や残材など)
が活用されています。

時代が変わり、屋久島の森は伐採の対象から保護
すべきものとなりました。

世界自然遺産に登録されてから、今年で20年を迎
えます。登録された平成5年に、上屋久町・屋久町(現
在は合併して屋久島町)が連名で住民総意のもとに
「屋久島憲章」を制定。屋久島の自然資源を守り続け
ていくことを宣言しています。

広告